

平成30年7月26日

於

府中市役所

平成30年度第1回

府中市総合教育会議 会議録

府中市政策総務部政策課

平成30年度第1回府中市総合教育会議 会議録

- 1 開 会 平成30年7月26日(木)
午後1時30分
閉 会 午後2時53分

- 2 出席者
市 長 高 野 律 雄 (議長)
教育長 浅 沼 昭 夫
委 員 崎 山 弘
委 員 齋 藤 裕 吉
委 員 那 須 雅 美
委 員 松 田 努

- 3 欠席委員
なし

- 4 出席説明員
文化スポーツ部長 五味田 公 子
文化スポーツ部次長(兼)スポーツ振興課長
(兼)オリンピック・パラリンピック等関連事業推進担当主幹 矢 部 隆 之
文化生涯学習課長
(兼)オリンピック・パラリンピック等関連事業推進担当主幹 古 田 実
教育部長 関 根 昌 一
教育部副参事(兼)指導室長 伊 藤 聡
教育総務課長 佐々木 和 哉
教育総務課長補佐 遠 藤 公巳明
学校施設課長 山 田 英 紀
学校施設課長補佐 藤 原 英 行
指導室長補佐
(兼)ICT教育推進・教育情報システム担当副主幹 鈴 木 正 憲
教育総務課総務係長 矢 島 彩 子

- 5 事務局出席者
政策総務部長 遠 藤 弘 美
政策課長 矢ヶ崎 幸 夫

政策課オリンピック・パラリンピック等推進担当主幹	佐藤直人
政策課副主幹（兼）行政経営担当副主幹	岡村耕
政策課主査	斎藤麻美

6 議事内容

- (1) 協議題1 平成31年度の市政運営及び予算編成に関する基本方針について
- (2) 協議題2 学校施設の老朽化対策について
- (3) 協議題3 ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に向けた取組について

7 傍聴者の数

2名

8 発言内容

○市長 それでは、只今より、平成30年度第1回府中市総合教育会議を開催させていただきます。教育長、教育委員の皆さまには、お忙しい中ご出席いただき、心より感謝申し上げます。また、日頃より、府中市の教育にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、本日は、協議題1「平成31年度の市政運営及び予算編成に関する基本方針について」、協議題2「学校施設の老朽化対策について」、協議題3「ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に向けた取組について」の3件について、ご協議をお願いします。

皆さまから活発なご意見をいただき、教育に関して市長部局と教育委員会の連携をさらに深め、本市の教育行政を一層推進していきたいと存じますので、どうぞよろしく願いいたします。

◎傍聴許可

○市長 なお、この会議は法律及び当会議の運営規程により公開が原則とされておりますが、傍聴を認めることとしてよろしいでしょうか。

○教育長、教育委員 異議なし

○市長 それでは、傍聴を認めます。

◎協議題1 平成31年度の市政運営及び予算編成に関する基本方針について

○市長 それでは、会議次第に沿って議事を進めてまいります。本日の協議題は、次第のとおり、協議題1「平成31年度の市政運営及び予算編成に関する基本方針について」、協議題2の「学校施設の老朽化対策について」、3の「ラグビーワールドカップ2019

及び東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に向けた取組について」であります。

はじめに、協議題1「平成31年度の市政運営及び予算編成の基本方針について」です。

市では、平成30年6月26日（火）に平成30年度第1回政策会議を開催し、来年度の市政の方向性を示した、「平成31年度の市政運営及び予算編成の基本方針」を策定しました。この方針に基づき、各部では、10月に開催予定の第2回政策会議での提案に向けて、部の運営方針を作成し、新規・レベルアップ事業や、見直し事業等の検討を進め、来年度の予算編成へ繋げていきます。

それでは資料1の「平成31年度の市政運営及び予算編成に関する基本方針について」をご覧ください。1ページの前文を私から説明させていただきます。

平成26年度を初年度とする第6次府中市総合計画は、8年間の計画期間の折り返し点を過ぎ、今年度から後期基本計画期間へ移行しました。将来の人口変化を見据えた持続可能なまちづくりや、支援が必要な人への途切れることのない支援体制づくり、公共施設の管理や老朽化への対応など、多くの課題解決が求められる中、総合計画に掲げる全ての目標を達成し、目指す都市像を実現するためには、「着実に」かつ「スピード感を持って」施策を推進しなければなりません。

一方で、平成31年度一般会計予算は、市税等の一般財源の増加が見込めない中、扶助費や繰出金等の社会保障経費は依然として増加が見込まれ、さらに、公共施設の老朽化対策経費が増えていくことが予測されることから、厳しい予算編成となることが見込まれます。限られた財源と人員の中で、働き方改革の視点も持ちつつ、市民サービスの質を高め、効果的・効率的な行財政運営につなげるためには、全ての既存事業において、必要性を再検討する必要があります。

このような中、来年度はラグビーワールドカップが開催され、また、本市は、市制施行65周年を迎えます。本市の魅力やまちづくりをPRする絶好の機会であると同時に、本市に対する市内外の期待や注目も高まる1年になることから、将来を見据えて着実に施策を推進しつつも、様々な取組にトライしながら、スピーディーな事業展開を図ることとし、以下に述べる政策立案と予算編成の視点に基づき市政を運営していくことと致します。

詳細については、政策総務部長から説明をお願いします。

○政策総務部長 それでは、「基本方針」の内容につきまして、ご説明いたします。

1の「政策立案の視点」では、社会状況や市民ニーズを的確に捉えながら、第6次府中市総合計画に掲げる施策の推進や、課題解決につなげる効果的な事業展開を図ることとし、留意する事項を大きく9項目を掲げております。

(1)として「昨年度の行政評価や今年度の取組状況を踏まえた、各施策の「めざす姿」の実現に資する事業」を提案すること、2ページ(2)の「市民との対話と協働」については、その実践と拡大について、改めて職員一人ひとりが意識して取り組むこととしております。(3)として、「地方創生関連の事業」、(4)として「地域におけるつながりや支え合い

の仕組みづくり」に関する提案についてそれぞれ示し、(5)の「ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を契機とした施策展開」については、スポーツを通じた健康づくり、ボランティアやおもてなしを通じた市民の活躍や多文化交流、商業・観光施策との連携によるにぎわいの創出など、オール府中で取り組むとともに、大会後のレガシーの創出につながる事業の提案を求めています。

また、(6)は、「総合計画に位置付けのない新たな課題への取組」について、(7)は、「平成30年度から新たな計画期間に移行した「行財政改革推進プラン」への取組」について、(8)は「見直し・廃止事業の提案」について、(9)では「歳入確保策の提案」について示しております。

3ページの2の「予算編成の視点について」は、事業提案に当たっての財源確保の必要性や、財源創出への努力、見直し・廃止を含めた選択と集中の指向を重視する予算編成を行う旨を記載しております。

説明は以上でございますが、この方針に基づき、各部では、10月に開催予定の第2回政策会議での提案に向けて、部の運営方針を作成し、新規・レベルアップ事業や、見直し事業等の検討を進めていただきます。第2回政策会議では、施策の進捗状況や課題を確認するとともに、ヒアリングや質疑を通じて、提案された各事業の優先度を決定し、来年度の予算編成へ繋げていきます。以上でございます。

○市長 ただいま政策総務部長から説明がありましたとおり、各部における運営方針の作成をはじめ、新規・レベルアップ事業の提案等を進めていくこととなりますので、教育委員会の皆さんから来年度予算編成へのご意見などございましたらお願いいたします。

○那須委員 ここ最近「学校に行きたくても行けない」など、登校できない児童・生徒が増えていることが大きな課題となっており、そのようなことにならないように、各学校において未然防止に努めることはもちろんですが、不登校児童・生徒の学習を補うための対策を、今以上に講じる必要があると思います。

府中市には、そのような生徒が小集団の活動を通して、学校生活への復帰を支援するための適応指導教室「けやき教室」がありますが、現状では正規教員の配置はなく、子どもたちへの愛情をもった定年退職された先生方の善意にすべて頼っているような状態です。学習の個別指導以外に、事務作業から教材の手配、入室希望者へのガイダンスなど少ない人数で対応してくださっていますが、契約更新時にひとたび先生方が継続契約を辞退されると立ち行かなくなるという、危うい状態です。先生方には子どもたちを学校へ復帰させる、あるいは上級学校へ進学するタイミングで登校できるようにするための指導に専念していただけるよう、「けやき教室」の運営に関して、教育委員会が責任をもってしっかり関わるべきだと考えます。

また児童・生徒が増加しているため教室も手狭となり、適した人数での指導が難しくなっているうえに、やりがいや達成感を味わう体験教育の教材も不足している状態です。

「教育環境の充実」施策の方向性として、悩みを持つ児童・生徒・保護者に迅速かつ的確に対応し、教育相談体制を整備し、子どもたちの健やかな成長を支援することとあります。児童・生徒が学ぶことの楽しさを味わいながら、健やかに成長するという「めざす姿」の実現のためには、適応指導教室の人や物などの教育環境にもきちんと目を向けて、対応することが大事だと思います。このような状況について、予算の面でのご配慮を今後ともよろしくお願いいたします。

○市長 ありがとうございます。那須委員からご意見いただきましたが、指導室長、いかがでしょうか。

○指導室長 適応指導教室の運営等のご意見にお答えします。

現在、適応指導教室は、管理職を退職した際、ご自身で非常勤教員の職に応募された先生方など7名で運営に当たっており、今年度は昨年度より1名増員での運営となっております。この非常勤教員の制度には職務の区分がございますが、適応指導教室の運営全般を扱うことを本務とした区分に応募いただいた非常勤教員を本市の適応指導教室に配置しており、教育委員会の一職員として豊富な経験を生かしながら熱意をもって取り組んでいただいているところでございます。

近年、不登校児童生徒の復学への意欲が高まる兆しが見られ、昨年度は、年度の後半になり通級児童生徒が増加するにしたがって、指導場所の確保が課題となってきたことから、今年度は通級児童生徒数の動向を注視しつつ、指導場所の確保に対応してまいりたいと考えております。

また、昨年度より、東京都においても「東京版不登校特例校」の設置を促進していることから、本市における不登校特例校の設置も視野に入れつつ、適応指導教室の充実に努めてまいりたいと考えております。以上でございます。

○市長 以上、指導室長から応えていただきましたが、私も那須委員と同じで、不登校の未然防止はもちろん大事なことでありますし、子どもたちが学校に通うことを楽しむことが何よりだと思っておりますが、不登校に陥ってしまった児童・生徒であっても、適切な指導を受ける場や環境があることによって、新しく知る・学ぶという喜びを積み重ねることができ、復学への意欲につながるということですので、「東京版不登校特例校」の設置などの取組を参考にしながら、適応指導教室の充実に努めて頂けるよう、願っているところであります。

○崎山委員 示されました基本方針については、総論としては、正にそのとおりという基本方針と思います。限られた財源の中、アイデアを出してなるべく収入を増やし、支出としては、不要とまでは言えないとしても優先順位の低いものについては民間の参入を促すなど配慮を加えながらも府中市からの財政支出を削減し、多くの市民ニーズに合った重点施策については迅速に対応する。府中市が目指す姿を具現化するような、計画的で無駄のない予算編成をするという方針には、強く同意するものであります。

○市長 ありがとうございます。財政的に豊かという時代は、これから先なかなか考えられないこととすし、加えて、先ほど申しあげましたように、社会保障費としての歳出増を組

んでいかなければならない中で、府中市が目指す姿を具現化するような予算編成を行っていききたいと思います。

○**松田委員** 教育予算も多岐にわたって様々あると思いますが、緊急性や必要性を考慮しながらも、教育の質が落ちないような活動ができるような予算編成をぜひお願いしたいと思います。

○**市長** 教育の質を落とさないというのは、最も重要な話でありまして、緊急度が高いもの、また、どうしても欠かすことのできないものにつきましては、削減することのないようにしっかり取り組まなければいけないと認識しております。

○**齋藤委員** 市長におかれましては教育委員会事業につきまして、いつも深いご理解とご配慮を賜りまして誠にありがとうございます。平成31年度の予算編成につきましてもこれから是非よろしく願いをいたします。

教育関連では、大きくは「府中市学校教育プラン」や「府中市生涯学習推進計画」などの総合的な計画の着実な実現を目指す取組を展開できるような予算編成等を期待したいところでございます。特に今の時期の学校教育に関連しましては、これまで何度もお話をさせていただいておりますように、新しい学習指導要領への円滑な移行という全国的な課題にしっかり対応した取組が必要かと思えます。そのための条件整備はぜひ必要であると考えます。

また、基本方針の「1 政策立案の視点」の「(2) 市民協働の推進」や「(4) 子育て支援など地域におけるつながりや支え合う仕組みづくり」という部分に関連して、現在、教育委員会で推進している「コミュニティ・スクール」の取組は、まさにこの市全体の基本方針に沿ったものであると考えております。学校教育の充実のためのみならず、防災などにも関連する取組に発展しているところもあり、今後一層の充実を図るべき取組であると考えております。

そのほかにも、来年度に向けて、今後、更に具体的な提案をさせていただくこととなると思いますが、どうぞよろしく願いをいたします。

○**市長** ありがとうございます。新学習指導要領につきましては、円滑な移行が全国的な課題であるとお話しいただきましたが、府中市においてもしっかりと移行できるよう、教育委員会の皆さまに議論いただきながら、市長部局も懸命に支援できるよう進めてまいりたいと思えます。今後、いろいろなご提案もいただけるということですので、どうぞよろしく願いいたします。なお、市民協働の推進や、子育て支援などによる支え合いの仕組みづくりについては、私も市政運営方針の中で最も重要なことであると思っております。地域でつながることで、子どもたちも多くのことを学ぶと思えますし、社会全体でつながることの重要性をしっかりと認識していくことが大切です。西日本では大変な水害があり、大きな被害を受けたところですが、このような災害がこの府中市で起こらないとも限りませんし、人のつながりというものを力に変えて、今まさに復興に向かって歩き始めたところであると認識しておりますので、この政策立案の視点をしっかりと踏まえ、予算編成にもつなげていきたいと思っております。

○**教育長** 最近の教育改革等による子どもたちを取り巻く状況から申しあげます。ただいまも話題になりましたが、今年度から新学習指導要領への移行期間に入りました。「特別の教科 道徳」、小学校での「外国語科」(英語)の創設をはじめ、「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善に努めていくこととなります。さらには、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力の育成に向け、子どもたちに求められる資質・能力とは何かということ和社会と共有し、連携しながら「社会に開かれた教育課程」の実現が求められており、子どもたちへの教育に対して新たな局面を迎えていると認識しています。

こうした中、教職員の負担が大変大きい教育現場の状況に、社会的にも関心が集まっており、国におきましても、「学校における働き方改革に関する緊急対策」を公表し、また、東京都では、「学校の働き方改革推進プラン」を策定したところがございます。本市では、以前から副校長等校務改善支援事業を実施するなど、教職員の勤務条件の改善を図ってまいりました。これに加えまして、今年度からは、学校における働き方改革の取組をさらに推進するために、副校長等校務改善支援事業のレベルアップと学校が比較的余裕ができる夏季休業中の8月中旬に全小中学校で「学校閉庁日」を設けました。

こうした状況を捉え、今回お示しいただいた基本方針を踏まえながら、今後も教育委員会として、良好な教育環境、教育条件の確保とカリキュラム・マネジメントを通して、子どもたちの教育の充実を図ってまいりたいと考えております。

○**市長** 教育長、委員の皆さま、ご意見いただきましてありがとうございます。今後、教育委員会の中で調整していただき、予算編成に向けて方針等をご提示いただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。それでは、協議題1につきましては、ここまでとさせていただきます。

◎協議題2 学校施設の老朽化対策について

○**市長** 続きまして、協議題2「学校施設の老朽化対策について」です。

本市の小中学校の校舎は、昭和30年代から昭和40年代までに建設されたものが全体の7割を超えており、老朽化への対策として、改築による施設の更新または既存校舎の長寿命化を図る必要があることから、教育委員会におかれましては、昨年度から協議会を設置し、学校施設のあり方や整備方針について、協議を重ねられていることと思います。また、先月開催された本年第2回市議会定例会では、「学校施設老朽化対策特別委員会」が設置・開催され、初めての審議が行われました。本日は、はじめにこれまでの老朽化に対する取組状況や、今後の計画についての考え方を説明していただき、意見交換をしたいと思います。

それでは、教育部長より説明をお願いします。

○**教育部長** それではご説明させていただきます。資料2「学校施設の老朽化対策について」をご覧ください。

本資料の1ページから14ページにつきましては、6月に開催された学校施設老朽化対策特別委員会で報告をさせていただいた資料となります。教育委員の皆さまには、7月19日

開催の教育委員会で報告をさせていただいておりますので、本日は、説明について割愛をさせていただきます。それでは、15ページをお開き願います。

(4)の「学校施設改築・長寿命化改修計画の考え方」でございます。資料を1枚めくっていただきまして、16ページをお願い致します。学校施設改築・長寿命化改修計画の考え方を3点記載しております。

1つ目の「学校施設の老朽化状況を踏まえた、最適な計画とします」は、学校施設の老朽化対策として、改築・長寿命化改修など、様々な手法がありますが、府中市の学校施設は、築年数が50年を超える建物が多いことから、現状では、改築を中心とした計画といたします。

2つ目の「教育環境の充実を図ります」は、施設面でバラつきがあるため、公立学校として、できる限り公平な学習環境が確保できるよう、各教室や各部屋の整備方針を定めてまいります。

3つ目の「地域と連携し、地域の拠点となる学校を目指します」は、地域開放、複合化も視野に入れ、教室配置や改修などについて、フレキシブルな対応が出来る学校づくりを目指します。また、災害時の一次避難所となることから、学校が備えるべき機能を検討致します。資料の説明は、以上となります。

○市長 ありがとうございます。それでは、ご意見などございましたらお願いいたします。

○崎山委員 府中市は府中市に住む子どもたちの義務教育の機会を保障し、その水準を確保する責任を負っているわけですから、質的にも量的にも十分な学校設備を用意しなければなりません。学校施設の老朽化対策は、構造物としての学校が近い将来、質的量的に不十分に至ることが見込まれることが判明しているわけですから、避けて通ることができません。資金が潤沢にあれば一気に終わらせることもできるでしょうけれども、現実としては優先順位をつけながら着手することは止むを得ません。そのような状況の中、お示しいただいた、老朽化対策では、校舎の老朽化の程度、児童・生徒数の推移などのデータを元に、考え方として「1、老朽化状況を踏まえた計画、2、教育環境の充実、3、地域の拠点となる学校」の3点が記載されています。

そして、この「地域の拠点となる学校を目指します」の説明文として「学校の地域開放、複合化も視野に入れ、教室配置や改修などについて、フレキシブルな対応が出来る学校づくりを目指します」という記載があります。この部分について、2点お伺いしたいと思います。

1つ目は、複合施設に想定されている機能として何を考えておられるかということです。学童クラブ、文化センター、地域プール、地域図書館、地域体育館などを考えておられるかと想定しますが、場合によっては教育センター、保健センターなどの市の施設、交番、消防署などの公的な施設、場合によっては高齢者のデイケアなど民間施設も同じ敷地内、建物内に共存することも考えられると思いますし、事実、そのような施設があることを知っています。現時点はどのような複合施設をお考えでしょうか。

2点目は、複合化する施設があるとするなら、そちらの市民ニーズや老朽化などの状況も着工の優先順位の考慮に組み入れられるべきと思いますが、そちらの調査も並行して進めておられるのかどうか、お伺いしたいと思います。

○市長 それではこの点につきまして、教育部長お願いします。

○教育部長 学校施設の複合化につきましては、本市の公共施設マネジメントの取組の中で、学校施設は改築時に係る費用や、求められる教育環境の確保に伴う面積の増加などの課題があるとしており、これらの課題に対応するため、今後の学校施設の改築等の中で、他の公共施設との複合化を検討するものとしています。

また、国においても、学校施設の複合化については、他の公共施設などの関係部局と連携し、教職員、児童生徒、保護者、地域住民などの意見を取り入れつつ、地域の実情に応じ、学習環境の高機能・多機能化、児童生徒と幼児や高齢者などの多様な世代との交流、学びの場を拠点とした地域コミュニティの強化、学校教育活動等を支える専門性のある人材の活用などを念頭に置き、実施することが重要としています。

これらの考え方を踏まえ、現状では、学校施設の複合化については、児童生徒が利用者となる学童クラブや放課後子ども教室について具体的な検討を行っておりますが、今後は、学校の周辺の公共施設の状況を把握し、児童生徒数の動向を踏まえた上で、各学校の建築条件に見合った、合理的かつ効果的な複合化の実現について、関係課と連携し、検討してまいります。

学校施設の老朽化対策の優先順位については、老朽化対策調査の結果に加え、児童生徒数の将来推計、教育環境、近隣の公共施設の状況等を踏まえ、総合的に判断した老朽化対策の優先度を学校施設改築・長寿命化改修計画で、必要な範囲で示していくこととしています。ご質問にございました、複合化する他の公共施設の市民ニーズや老朽化の状況などにつきましては、建築施設課が所管する公共施設マネジメント白書に示されているところでございます。今後は、この白書や今後策定されることが予定される、各施設の老朽化対策に関する計画などにに基づき、複合化できる可能性のある施設につきましては、関係課と連携し、複合化を検討してまいりたいと思っております。以上でございます。

○市長 教育部長の答弁の最後の方にありましたように、この話は公共施設マネジメントの白書を平成23年度に公表したところから始まっており、この中に学校施設も含まれているとお考えいただければと思います。そして今後の学校施設の老朽化対策を考える中では、将来の児童・生徒数の予測や人口動態と、地域の状況を見ながら、全体的にバランスの取れた公共施設の配置、また、校地面積の大小等も考慮しながら、どのように複合化ができるのかを考えていきたいと思っておりますので、今後も様々なご意見をいただければと思います。

○松田委員 これはとても重要で重い問題ですので以前から調査などをして進めてきたところだと思いますが、まずは今回早期改築着手校の選定など老朽化対策へ方向性ができよかったと思います。さらに、将来的な対策を考えますと、築40年、50年を超えるような古い学校が多くあり、今市長からもあったとおりの、児童生徒の推移が増加予想のところ、減少予

想のところがあり、難しいところもありますが、教育の環境、地域との連携などバランスのとれた改築につなげてほしいと望んでいます。

○市長 ありがとうございます。先ほど説明させていただいたように、昭和30年代の中頃から40年代の中頃の約10年の間、府中市には都市化の波が押し寄せ、大幅に人口が増加しました。この時期に児童・生徒がしっかりと学べるように校舎を建設したわけですが、建設時期が一時期に集中したことによって、現在老朽化が目立つ学校が多いという状況です。このたび、教育委員会や市議会等で老朽化対策についての新たな取組が始動できたということは、条件が整った、議論が始まったということですので、松田委員のご発言にもありましたように、この機を逃さず、しっかりと議論を重ね、着実に整備を進められるようにしたいと思います。引き続きよろしく申し上げます。

○齋藤委員 資料2の最後のページにある、「学校施設改築・長寿命化改修計画の考え方」に示されている三つの考え方は、いずれも重要な観点であると思います。(1)の「改築」か、それとも「長寿命化」にするか、などの手法の問題については、予算の問題とともに建築にかかわる専門的な観点からの判断が一番重要であると思います。(2)の「教育環境の充実」と(3)の「地域と連携し地域の拠点となる学校を目指す」という考え方は、現在も将来も求められる重要な観点であると思います。フレキシブルな対応ができることや、災害対応を十分に考慮した学校施設であるべきことは、最近の社会状況を考えても必要なことと思います。同時に、当然の前提として、学校はなんといっても教育活動の場であるというのが第一義的な施設目的ですので、その点をしっかり踏まえるべきことは言うまでもないことかと思えます。学校施設という建物の形は、そこで行われる教育活動の中身を決める力がありますし、逆に教育活動のねらいや内容に建物の形が合わないと、教育活動に不自由をきたし、せつかくの建物のアイデアやデザインが障害になることがあります。ですから、実際にそこで教育活動を展開する教職員のみなさんや児童・生徒、保護者、地域のみなさんの声をこれからもよく聞きながら、府中の学校の歴史であり良さである「おらが学校」と言いますか「自分たちの地域の学校」、「みんなに愛される学校」というものを作り上げていければよいと思っております。

○市長 ありがとうございます。学校はもとより、人が集まる施設というのは、建物が主役ではなく、集まる人が主役であります。そして、学校こそ、子どもや教育に携わる教職員の皆さん、保護者の皆さん、地域の皆さん、学校を応援する方々等、みんなが主役になるような、そして、笑顔が学校のデザインになるような作りをしなければいけないと思っております。齋藤委員からお話いただいたように、「自分たちの地域の学校」であり、「みんなに愛される学校」というものを作っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○那須委員 「学校施設改築・長寿命化改修計画の考え方」については、主管部課の説明のとおりだと考えます。

冒頭市長からもありましたが、市議会では学校施設老朽化対策特別委員会が設置されました。その委員会で、どのようなことが話し合われるのか、注目しているところです。私たちは教育委員としての役目をしっかりと果たし、行政と教育、それぞれの持ち場で、協力して事業を進めることができればと思います。

また、設計施工業者選定においてですが、安かろう悪かろうでは困ります。きちんとした責任の上に設計や仕様書作成を行っていただき、市として意図するところを、心をもって実現していただける会社をお願いしたいと思います。

○市長 ありがとうございます。後半お話いただいた事業者選定の部分は、そのとおりでありまして、質の高い事業を行っていただける設計・施工業者を公平公正に選定していくことは大事なことであります。また、市議会では多角的な議論が行われると思いますので、市長部局として見守っていき、意見などを頂戴したいと思います。期待するところは広い視野で、全体をよく見渡し、さらに、40年、50年先も見据えた広範囲な議論をしていただきたいというところです。ぜひ、教育委員会共々、様々なご意見を参考にしながら、議論を重ねていきたいと思っています。

○教育長 ただいまお話がありましたように、本市の学校施設は、建築後40年以上になる学校が、80パーセントを超えており、老朽化対策は喫緊かつ重要な課題であると認識しております。

このような中で、老朽化対策を着実かつスピード感を持って推進するため、第八小学校と第一中学校の2校を早期改築着手校に選定し、今年度には基本構想に着手してまいります。

これと並行いたしまして、学校施設の老朽化対策を着実かつ計画的に実施するため、学校施設改築・長寿命化改修計画の作成にも着手しております。この計画では、学校施設は、未来を担う本市の児童・生徒が集い、生き生きと学び、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和の取れた「生きる力」を身につけるため、多様化する新たな教育内容や教育方法などに対応できる、施設機能を備えていくことが重要であると考えております。このことを念頭に置き、児童・生徒・教職員にとって快適な学校施設の実現に向けて、検討しているところでございます。

また、一方では、地域の方々にとりましては、生涯にわたる学習、文化、スポーツなどの活動の場となり、災害時には避難所としての役割も果たす重要な施設であることから、児童・生徒の視点に加えまして、地域の方々の使用に配慮した、ユニバーサルデザインの採用をはじめ、人に優しい施設であることについても検討を進めているところでございます。

さらには、改築などを進めていく場合には、本市が取り組んでおります、公共施設マネジメントの考え方である「施設の総量抑制や圧縮」、「機能に着目した施設の有効活用」などを踏まえた、学校施設の効果的な地域開放や、他の公共施設との複合化を検討するとともに、このことは大変重要であります。将来の児童・生徒数の動向や環境に配慮した、施設整備を行うことについても検討しております。

今後は、これらの考え方を総括しまして、学校や児童・生徒、地域の方々など様々な方々のご意見を十分に伺いながら、平成31年度末までに学校施設改築・長寿命化改修計画の策定に努めてまいりたいと考えております。

○市長 皆さまどうもありがとうございました。それでは、協議題2につきましては、ここまでとさせていただきます。

◎協議題3 ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に向けた取組について

○市長 続きまして、協議題3「ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に向けた取組について」であります。

いよいよ来年に迫ったラグビーワールドカップ、その翌年のオリンピック・パラリンピックの開催を、本市の魅力発信や、にぎわいの創出につなげるとともに、様々な取組が大会後もレガシーとして残ることを目指して、事業を進めていくところであります。本日は、これまでの府中市全体の取組と、教育における取組について説明させていただき、今後に向けた意見交換ができたと思います。はじめに、政策総務部長と教育部長より説明をお願いします。

○政策総務部長 それでは、お手元の資料3に基づきご説明いたします。資料の2ページをご覧ください。

ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に向けた府中市全体での取組につきまして、ご説明いたします。まず、平成27年11月に、2つの大会に向けた基本方針を策定いたしました。また、その方針に基づき、平成28年11月に実施計画であるアクションプランを策定しております。このプランでは、5本の柱、具体的には、「大会気運の醸成」、「キャンプ地の誘致」、「ボランティアの育成支援」、「スポーツ・文化の発展」、「魅力発信」というテーマに沿って行う取組をまとめております。

続きまして、3ページをご覧ください。まず、「大会気運の醸成」でございますが、大会気運を高めるため、1000日前などの節目イベントやオリンピック、パラリンピアンを招きイベント・スポーツ大会等を実施するほか、大会PR活動、近隣自治体をはじめ、都や組織委員会と連携した取組を実施しております。

続きまして、4ページをご覧ください。「キャンプ地の誘致」でございますが、これまで国内外に向けた誘致活動、視察の受入れ等を行ってございまして、この結果、ラグビーワールドカップでは、イングランド、フランスの公認チームキャンプ地に内定しており、オリンピックでは、7人制の日本代表を継続的に受け入れることとしております。また、野球では、オーストラリア野球連盟と覚書を締結し、本年2月には最初のキャンプが実施されております。このほか、本年6月に車いすバスケットボールのオーストラリア代表を受け入れたほか、現在、卓球のオーストラリア代表の視察受入れを調整しているところでございます。

続きまして、5ページをご覧ください。「ボランティアの育成支援」でございますが、両大会におけるおもてなし体制の構築に向けて、市民のボランティアに関する啓発講座等を開催するほか、本年5月にオリンピック等に向けたボランティアの登録制度「チーム FUCHU ボランティアバンク」を設立し、市のイベントや事業で活動していただいております、7月からは、登録者向けの育成講座を開催しております。

続きまして、6ページをご覧ください。「スポーツ・文化の発展」でございますが、府中駅伝では、多摩川かぜのみちから市内中心部へのコース変更やトップチームとの連携など、スポーツを取り巻く様々な環境の充実のほか、ボッチャをはじめとする障害者スポーツの振興、府中市における文化プログラムの発信などに取り組んでおります。

続きまして、7ページをご覧ください。「魅力発信」でございますが、無料W i - F i 整備など、国内外の来訪者の受入れ環境の整備を行うほか、多磨駅の改良整備等を行っております。また、本市はオーストラリア、オーストラリアのホストタウンとなっており、学校給食での各国料理の提供や、青少年の交流などを行っております。さらに、ラグビートップチームや市内関係団体と連携して、ラグビーのまち府中の取組を推進しております。

8ページをご覧ください。両大会に向けた推進体制でございますが、庁内をはじめ、市内関係団体との連携を図るよう体制を構築しております。本年4月には、庁内では、オリンピック・パラリンピック等の関連事業の関係課である5課の課長に、担当主幹を兼務発令いたしました。また、市内67の関係団体からなる実行委員会を設立し、気運醸成の取組や、おもてなしの準備をしております。

9ページをご覧ください。こちらは、両大会における府中市近隣での開催競技を参考に掲載しております。最下段の「武蔵野の森公園」につきましては、市内で行われる唯一の開催競技である自転車ロードレースのスタート地点となっており、コースにつきましては、市内を通過する見込みとなっております。説明は、以上でございます。

○教育部長 私からは、資料4から資料6に基づき、ご説明いたします。資料4をご覧ください。

本市では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を、子どもたちの人生にとってまたとない重要な機会と捉えた「東京都オリンピック・パラリンピック教育」を全市立学校で実施しています。基本的な視点としましては、「全ての子どもが大会に関わること」、「体験や活動を通じて学ぶことを重視すること」そして、「計画的・継続的に教育を展開すること」としております。

取組の概要をご説明いたします。東京都では、オリンピック・パラリンピック教育の基本的な枠組として、「オリンピック・パラリンピックの精神」「スポーツ」「文化」「環境」の4つのテーマと、「学ぶ」「観る」「する」「支える」の4つのアクションを組み合わせた取組、いわゆる「4×4の取組」を推進しており、本市においても、この枠組を基本に推進しております。資料裏面でございますように、4×4の取組を推進する中で、ボランティアマインドや障害者理解等の5つの資質を重点的に育成しております。

各学校の具体的な取組例につきましては、資料4及び資料5に記載したとおり、各学校で創意工夫を凝らし、様々な活動に取り組んでおります。また、資料6の学校ごとの全体計画の例のとおり、市内全校で、オリンピック・パラリンピックを全ての教育活動の様々な教育実践に関連付け、学校全体で組織的・計画的に展開しているところでございます。

次に、資料4に戻りまして最後に示しております、「ラグビーワールドカップ2019に向けての取組について」でございますが、市立小学校では、府中市小学生タグラグビー大会「フォーリスカップ」への参加や東芝ラグビー部の選手たちによるタグラグビーの指導など、ラグビーに親しむ機会を設定しております。

また、市立中学校の生徒会が中心となり、大会本番期間中での「おもてなし」や多様な交流の取組について検討に入ったところでございます。説明は以上となります。

○市長 説明をいただきました。オリンピック等の開催を契機として、子どもたちに夢や希望を与えるとともに、様々な活動や体験を通じて、子どもたちの成長につなげていくことが大切であると考えておりますが、これからの学校現場における取組や、市全体の取組へのご提案など、ご意見がございましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

○松田委員 私の個人的な思いも強くあるのですが、せっかくの機会ですので、もっとたくさんのお子さん・生徒にラグビーを知ってもらいたいと思っています。ワールドカップの認知度もなかなか上がりませんが、ぜひ府中市の子どもたちには知ってもらいたいと思います。また、報告のありましたタグラグビー授業やラグビー体験については、継続的に実施していただきたいですし、フォーリスカップは、今年はワールドカップの1年前記念大会としてもっと大きな大会を目指して開催するなど、さらに地域や企業を巻き込んだイベントはできないものでしょうか。

先日、東芝ラグビー部とパナソニックワイルドナイツとの試合の直前に、白糸台小学校と小柳小学校とのタグラグビー交流会を同じグラウンドで開催し、その後東芝ラグビー部の解説付きで試合観戦、さらにはボールボーイ、ボールガールを手伝ってもらうという機会がありました。子どもたちには、貴重な体験をしてもらえたことと思っていますし、PRの効果もあったのではないかと思います。

また、府中市でもボランティア・おもてなしフォーラムなどを開催していただいておりますが、ボランティアへの参加支援も大切だと思います。また、ボランティアには参加できなくても、多くの子どもたちがホスピタリティの気持ちを持てるように展開して行ってほしいと考えます。海外のチームまたは観光客に対してホスピタリティを持って接して欲しいです。このような気持ちで接することで、「Thank you」と言ってもらえると思いますし、海外の人はもちろん自分自身もとても気持ちのいい事だとわかると思います。もちろん2年で終わってほしくはないのですが、2年連続でビッグイベントがあるので、子どもたちには、積極的に関わってほしいと思っています。

○市長 ありがとうございます。ご意見の最後にまとめていただきましたように、世界中で非常に多くの方々注目するビッグイベントが2年連続で開催されるわけですので、ここに、

子どもたちを含めて多くの市民の方が、積極的にいかに関わっていただくか、その関わり方のメニューをしっかり作っていくのが、私たちの役目かなと思っております。

ラグビーワールドカップについては、1人でも多くの子どもたちに、あの楯円球に触れてもらいたい、あるいは何らかのかたちでゲームに携われる機会を設けられたらいいなと思っていたところで、先日のオープン戦のお話をいただいたわけです。東芝、サントリーの両トップチームには、このような機会を今後も増やしていただきたいとお願ひしたいと思います。また、フォーリスカップは、まさに市民の皆さまの作り上げた協働事業ですが、もう少しスケールの大きなことをできないか、話してみたいと思います。

いずれにしても、子どもたちがボランティアに加わることができれば良いですし、それができなくても、オリンピック・パラリンピックのホストタウンであるオーストラリア、オーストラリアの料理を給食で食べたり、現在行っている「英語でクッキング」という事業などを通して、スポーツまたは大会に直接関わらなくても「世界を知る」ということが大事であると思っております。

○那須委員 興味のある市民は自ら情報を取得したり、ボランティアに参加したりしていることと思いますが、全市的な気運の醸成には、すべての市民の皆さんに関心を持っていただくことが必要だと思います。府中駅周辺や府中公園などで開催される各種イベントや美術館・図書館との連携企画などで、多くの市民の目に触れるような取組は当然として、府中全域において、日常の生活の中での周知活動というのも欠かせないのではないのでしょうか。

少し細かい話になりますが、例えば、資料5にあるような各学校での取組として模造紙等でまとめたものを、文化センターや地域の公会堂、もし可能であれば商工会等にもご協力いただき、各種店舗、スーパーや銀行など地域の皆さんが普段利用されている施設に一時的にでも掲示させていただけると、その地域の子どもたちの作品ということで、興味を持っていただけるのではないかと思いますし、子どもたちにとっても、学校以外の身近な生活の場で自分たちの勉強の成果が発表されることに、喜びを感じると思います。

また、特に小学校の校内において、走り高跳びや走り幅跳びの世界最高記録の高さや距離を、ビニールテープのようなもので壁や床に記した学校があります。知識としてではなく、実際の感覚として、その高さや距離を捉えやすいように工夫された掲示なのですが、この掲示方法を文化センターなどでも行うというのはどうでしょうか。ほかにも、例えば、ウサイン・ボルトの一步の幅であるとか、日本記録と世界記録を比較して掲示してみるなども、できるかもしれません。

また、中学校の職場体験事業において、市の広報課で体験する生徒は、例年広報誌「けやきっこ」の取材・編集を体験しています。もしタイミングが合うようなら府中を訪れるアスリートやそのスタッフへの取材をさせていただき、子どもの目線で「けやきっこ」でレポートなどができると良いと思います。

以上は開催前の取組について申しあげましたが、例えばボランティア登録してくださった方を、コムスポボランティアや観光ボランティアとして継続していただく、さらには学校事

務や学校支援をしていただける人材バンクにするなど、大会開催の効果が閉会后も持続できるようにすることが何より大切なことだと思いますので、その点についても十分にお願ひしたいと思います。

○市長 大変素晴らしいご意見をいただいたと、今伺っております。学校で子どもたちが一生懸命力を合わせてまとめ上げた成果資料を、学校の中だけに留めるのではなく、例えば文化センターに掲示して地域の方に見ていただくということは、資料を持ち出すことができるかという課題さえクリアできれば、簡単に実現できることだと思います。また、走り幅跳びの例を挙げていただきましたが、「金メダルを取る人はこれぐらいの距離を飛ぶ」ということを知ることは、子どもにとって、とても興味深いことであると思いますし、大人にとっても発見があるかもしれません。さらには、取材をするというのも、子どもたちにとっては関心の高まることで、貴重な体験になると思います。

いずれにしても、大会の開催前、開催中、開催後のすべてにおいて、多くの財産が残ることだと思いますので、様々なご意見をいただきながら、しっかりと進めていきたいと思ひます。ありがとうございました。

○崎山委員 オリンピック・パラリンピックへの取組として資料4に示された中にある4×4の取組という基本的な枠組みがとても分かりやすいと思ひます。そしてできれば、その中でも「学ぶ、見る」よりも「する、支える」の体験型の学習に、できれば力をいれたいと思ひます。学ぶと見るは、この時期に限らず資料を準備すればいつでもできることです。これはラグビーワールドカップについても同じですが、「する、支える」はまさにこの時期にしか体験できないことが多いと思ひられます。アクティブラーニングという視点からも重要な活動ですし、そのための授業時間の確保や、有意義な体験ができるための事前準備などに対して、市として配慮をお願いできるとありがたいと思ひます。

○市長 ありがとうございます。少しコメントが反れてしまうかもしれませんが、6月の第1週の週末に、味の素スタジアムの隣に昨年完成した武蔵野の森スポーツプラザで、日本、カナダ、ドイツ、オーストラリアの4か国が参加する車いすバスケットボールの国際大会が開催されました。先ほどの説明にもありましたが、本市はオーストラリアのホストタウンですので、オーストラリアを応援し、総合体育館をキャンプ地として何日間か使っていたり、小学校の児童との交流の時間を設けたりといった取組を行ったのですが、大会当日に試合を観戦した子どもたちが、大変な盛り上がりを見せ、オーストラリアのチームを応援していたとの報告をいただきました。

応援するというかたちが全てではありませんが、少しでも直接関わることができるということが、関心を持つことや、自らの夢や希望の実現に向かっていくことにもつながると思ひます。交流の場面では、片言の英語を交わし、通じたということに喜びを感じ、心が育った子どももいたのではないかと思ひました。

○齋藤委員 ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピックを子どもたちにとってまたとない機会と捉えて、これを大いに生かす取組を進めることは

とても重要であると思います。子どもたちは体を動かすことが大好きで、運動を教育活動に上手に取り入れることで学校全体の教育を活性化することができると思いますので、多様な取組を展開したいところです。

また、現在は遠く離れた場所で行われるスポーツイベントの状況がリアルタイムでテレビ画面等を通して視聴できる時代になったわけですが、ややもするとテレビ画面の中だけの観戦に終わってしまいがちです。しかしせっかくのこの機会を大いに生かすべきだと思います。そのためには、只今、説明されましたように4つのテーマと4つのアクションを具体化するような取組が、私も大事だと思います。子どもたちも実際に体験したことのある競技や、調べたことのある事柄があれば、例えばテレビ視聴の仕方も変わってくると思います。これからさらに各学校での取組を推進できればと思っております。

さらに、それに加えて、子どもたちに身近な府中のまちではどうなるのかという具体的なイメージを持てるようにすることも大切であると思います。これらのスポーツイベントの開催で、府中のまちがどのようににぎわうのか、にぎわうようにしたいのか、という具体的なイメージを示せるような工夫が必要ではないかと思えます。競技そのものには、競技場やテレビ画面等を通して接するわけですが、特にアスリート以外の来訪者がどれほど府中のまちを訪れることになるのか、歴史と文化のまち・府中をアピールすることで、例えば大国魂神社の界隈が浅草・浅草寺界隈のように外国人観光客でいっぱいになるかもしれないなどのイメージづくりが必要ではないかと思えます。それを子どもたちと一緒にやるのも面白い国際理解の学習になりますし、気運の醸成につながると思います。

○市長 ありがとうございます。4つのテーマと4つのアクションを具体化するような取組を、とのご指摘をいただきました。これはまさに市全体で取組、考えていかなければならないことだと思っておりますので、教育委員の皆さまからも、校長先生をはじめ各学校へご意見いただければと思います。

また、府中の歴史や文化、魅力をいかに世界の皆さまに伝えていくかということも大事なことであり、アスリート以外の来訪者に府中を訪れていただけるような取組を、しっかり行わなければいけませんし、行うつもりです。また、このような取組を通じて、子どもたちが多様性と個性を大事にしながら、世界の中の「府中っ子」として育っていくことができればと思っております。

○教育長 委員の皆さまがおっしゃるとおり、様々な方法やアプローチを通して、ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を、府中市の子どもたちにとっての貴重な学びの機会とすることは、府中市教育委員会の大きな責務であると受け止めております。

その中でも、わたくしは、特に児童生徒の自主性・自律性・主体性を重んじた取組を促進したいと考えております。例えば、この機会に府中を訪れる外国のお客様方に対して、子どもたちが自分たちでできるおもてなしや交流の方法を考えたり、府中をキャンプ地とするラグビー代表チームの応援キャンペーンを各学校で考えたりし、実際に学校のフィールドを超

えて実施するなど、子どもたちがアイデアを出し、話し合い、計画を練り上げ、実際にやり遂げる活動を体験させることができたらと思っています。子どもたちからは、大人が思いもよらないような素晴らしいアイデアが出されるかもしれません。そこで、生徒の自主性・自律性を重んじて活動を進めてきた、本市で長い伝統を誇る生徒会リーダー研修会の活動を生かして、この取組が実現できないか、現在模索しているところです。

子どもたちからどのような素敵なアイデアが出るか、今から楽しみしているとともに、これらのイベントが府中市のすべての児童生徒にとって貴重な体験となるよう、今から準備を進めてまいりたいと考えております。

○市長 ありがとうございます。先ほど委員の方の中から、子どもたちを含め、全ての市民の皆さまに関心を持っていただくことが大事であるというご意見をいただきましたが、私もいかに関心を持ってもらえるように取組を進めていけるかということ、また、児童・生徒の主体的な取組を大事にすること、この2点はとても重要な姿勢であると思います。来年・再来年の本大会に向けて、今年からテストマッチやプレイベント等も始まりますので、それほど先のことではありません。本日いただいたご意見を参考にし、また、協議を重ねながら、子どもたちの心を育むためにもこのチャンスを生かしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

皆さま、貴重なご意見をいただきまして、どうもありがとうございました。

○市長 以上で、本日の協議事項は全て終了しました。最後に事務局から連絡がありますでしょうか。

○事務局 次回の開催につきましては、10月中旬頃を予定しておりますが、詳細につきましては、後日改めてご連絡させていただきますのでよろしくお願いいたします。

○市長 本日の開催につきましてはご多忙のところお時間をいただきまして、また、熱心にご協議いただきましてありがとうございました。以上をもちまして、平成30年度第1回府中市総合教育会議を終了させていただきます。

以上